



Title	須田力教授について
Author(s)	大櫃, 敬史; OBITSU, Takashi
Citation	北海道大学大学院教育学研究科紀要, 99, 167-168
Issue Date	2006-09-25
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/14796">https://hdl.handle.net/2115/14796</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	2006-99-167.pdf



## 須田力教授について

大 櫃 敬 史

### Profile of professor Tsutomu Suda

Takashi OBITSU

須田力教授は、1975年（昭和50）に北海道大学に赴任されて以来31年間の永きに渡り終始学生を中心に据えた熱意溢れる教育を全うされて来た。全学教育課程では、体育学の他に長年率先して一般教育演習を担当され、学部専門教育課程では、基礎演習、体力科学、専門演習、健康体育学実験などの講義・演習・実験を担当し、大学院教育学研究科においては、健康スポーツ科学基礎論、体力科学基礎論などを主に担当され多くの学生たちを教育・指導されて来た。

須田教授の専門分野は、体力科学及び発育発達領域であり、とりわけ積雪・寒冷の北海道の風土と生活に根ざした身体活動と体力の発達・保全を研究対象としてこれまで精力的に取り組んで来られた。特に先生の真摯な態度に裏打ちされた科学的探求心は、現地に直接赴き自らの目と肌で事に当たるといふ手堅い手法と相俟って、これまで数多くの優れた成果が生み出されて来ている。（代表的なものに『積雪寒冷地における高齢者の生活と運動』（北大図書刊行会、1997）、『雪と遊ぶ本』（雪センター、1992）、「ショベル除雪と筋力・筋パワーについて」（雪氷、2002）等が見られる。）この近年は徐々に研究対象も、日本国内に止まらず、文化的・地理的・気候的な諸条件の類似したサハリン、中国にも広く及んでいることに注目されたい。

また2001年～2003年、2004年～2005年には共同研究の代表者（科研費補助金）として寒冷地における高齢者の諸問題に関する研究において主導的役割を果たして来られた。

学外における活動に目を転じると、須田教授は、北海道体育学会事務局を実に25年間に渡って担当され、その間にも研究委員会委員長、理事長などを歴任され文字通り道学会の今日の発展の基礎を築いて来られた。さらに北海道体育協会スポーツ科学委員会委員、同副委員長を務める傍ら、北海道ラグビーフットボール協会大学委員会委員等を担当し、道内の体育・スポーツ界の発展にも大いに寄与して来られた。

一方、学内においては、全学関係で、体育指導センター運営委員会委員、全学教育企画責任者、施設環境委員会・施設計画専門委員会などを務め、教育学研究科においては、研究計画委員会委員、予算委員会委員および環境整備委員会委員長などを精力的に務めて来られた。また課外活動の指導にも大変熱心に取り組みされて、これまでに自身も卒部生として北海道大学ラグビー部顧問を一貫して務め、後輩の指導に熱意を持って当たって来られた。それ以前には、アメリカンフットボール部顧問や植物同好会顧問、武田流合気道部顧問なども幅広く務められ、多くの学生たちにスポーツ文化の持つ素晴らしさ——フェアプレーの精神、ジェントルマンシップなど——を情熱溢れる態度で説いて来られた。

須田教授は、全学教育では主として「トレーニング」を担当され、目的意識的なからだづく

りの原理と方法を学ぶコースを担当し、毎回の授業では常に創意工夫を凝らした、自然に運動の科学的認識が体得できるユニークな実技教育が展開されていた。特に後半担当された「健康増進のスポーツ」というコースでは、運動要注意者、身体障害者の学生に対して、安全に医学的診断と処方に基づく軽運動・スポーツ実習を実施し、健康づくりを行う授業を担当された。

こうした貴重な実践は、今日大学体育の存否が強く問われる中で、正にその存在理由を主張するに相応しい具体例を示してくれた。

偶然にも私と研究室が隣り合わせであったという理由も手伝って、先生との付き合いは、実に18年来に及んでいる。この間、朝一番に研究室に遣って来て、一番遅く研究室を後にする。これが決まって日々の日課であった。このことだけを取っても、我が研究棟は灯が消えたようになるのは必至であろう。長きに渡って須田教授が北大で果たして来られた大きな役割、……そのほんの一部でも埋めることができるか些か戸惑うことしきりである。

北大を去られた後も、学生や教員を温かい眼差しでご指導を頂きます様に、またライフワークである「積雪・寒冷の北海道の風土と生活に根ざした身体活動と体力の発達・保全」の研究が更なる発展を遂げます様に心から祈念する次第である。